

【おいらせ町教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

小中学校における「1人1台端末」を活用したICT環境整備を行い、児童生徒のための学びを個別最適化、協働的な学びを実現することを目指している。また、児童生徒の理解度や興味に応じた教材が提供される可能性があり、学びの探求を引き出すことができる。さらに、オンライン学習やデジタル学習ツールを活用することで、情報活用能力やコミュニケーションスキルの向上を目指しながら、多様な価値観や考え方に対する触れる機会を提供できる。このような学習環境は、未来の社会に必要とされる能力を育む土台となる。

児童生徒だけでなく、教師にとってもICT環境は指導方法の幅を広げる重要な役割を担っている。デジタル教材や学習管理システムを活用することで、効率的な指導や評価が可能となり、生徒の取り組みの進捗に応じましたきめ細かい指導を実現できる。また、データを活用した学習状況の把握や、他校や専門家との連携により教育の質を向上させることができると期待できる。これらの取り組みによって、児童生徒の可能性を最大限に引き出し学びの場を創造し、次世代を担う人材の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想第1期では、小中学校の児童生徒1人1台端末と、高速・大容量のネットワーク環境の整備を中心に進められた。この取り組みによって、ICTが急速に普及し、特に、児童生徒が学校に登校できないような状況において、コミュニケーションの一つとして利用され、学校との連絡が確保されたことは大きな成果と言える。

課題としては、ハードウェアやネットワークは整備されたものの、教師や児童生徒のICT活用スキルの習熟度には学校間で差があった。教育の質の向上につながるために、効果的な指導方法や教材の精選が必要であることがわかった。さらに、セキュリティや個人情報保護、端末の維持管理に関する課題もあった。

第1期の成果と課題を踏まえ、第2期以降では、ICT活用の実質的な教育効果を高めるための支援体制の充実、教員の指導力の向上、そして児童生徒の情報活用能力の育成に注力する。また、学校格差を解消し、児童生徒に公平で質の高い学びを提供することが重要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の活用は、学習の個別化や効率化を進めるだけでなく、学びの幅を広げる多様な可能性を秘めている。

1. 個別最適化された学習の実現

- **アダプティブ学習**

各児童生徒の理解度や進度に応じたデジタル教材を提供し、個別に最適なペースで学習を進める。

- **振り返り学習**

授業で使用した資料や動画を端末上で確認することで、振り返し学習を可能にし、学習内容の定着させる。

2. 協働的な学びの促進

- **クラウド ツールの活用**

ロイロノートスクールやGoogle Workspace for Educationを使った共同作業。資料作成やプレゼンテーションをグループで進める。

- **オンライン他交流**

他校や県外の学校とのオンラインセッションを通じ、多文化理解や異なる視点を学ぶ。

3. 探究型学習の推進

- **インターネット検索を活用した調査活動**

インターネットを使い、自ら課題を調べ解決方法を考える探求型の学びを実践する。

- **動画やデジタル教材の制作**

学んだことを動画やプレゼン資料として表現し、発表することで、情報発信能力を育てる。

4. 学習データの活用

- **学習状況の暫定化**

デジタルテストや学習アプリで得られたデータを活用し、児童生徒の苦手分野を把握し、個別指導に活用する。

- **ポートフォリオの作成**

学びの記録を電子的に保存し、成長を振り返ることで、自己評価力を高める。

5. 授業スタイルの多様性

- **反転授業の導入**

端末を用いて授業前に動画教材を視聴し、授業では対話や応用活動に行う授業スタイルに取り組む。

- **オンライン教材の活用**

学校外でも学習可能なデジタルドリルやオンライン教材を活用し、放課後や家庭学習での自主学習を支援する。

6. 特別支援教育での活用

- **特別支援ツールの活用**

文字を読み上げアプリや、画面上の拡大表示機能を活用し、学びを支援する。

- **個別カリキュラムの提供**

端末を用いて個別に適した教材を配信し、自分のペースで学習を進める仕組みを構築する。

7. 非認知能力の育成

- **創造性を高めるプログラムプログラミング**

教育やアート制作を端末上で行い、想像力や論理的思考を育てる。

- **自己管理能力の向上端末**

スケジュール管理や課題の提出を行い、自律的な学習態度を養う。

8. 保護者と地域との連携

- **学習状況の共有**

保護者と児童生徒の学習進捗状況を共有するプラットフォームを活用し、家庭での支援を促進する。

- **地域学習の拡大**

地域の資料や歴史をオンラインで調査し、フィールドワークから多様な価値観と経験を得る。

このような方策により、1人1台端末を効果的に活用し、児童生徒の学びを前提として、21世紀型スキルを育成することができる。